

糖価調整制度の持続的な運営を図るための取組について

令和5年9月

農林水産省

1 てん菜糖の交付対象数量及び指標面積についての検証（案）

「持続的なてん菜生産に向けた今後の対応について」

- 砂糖の消費量が減少する中で、てん菜糖業の在庫量が増大し、厳しい経営状況にあるとともに、糖価調整制度の砂糖勘定の収支についても累積赤字が増大しており、このような状況が続けば、持続的なてん菜の生産が困難になるおそれがあることを踏まえ、「持続的なてん菜生産に向けた今後の対応について」を決定。

検証内容

糖価調整制度の持続的な運営を図るため、毎年度、

- 調整金収支の状況
- 砂糖需給の動向
- てん菜の生産状況
- てん菜糖業の経営状況

等を踏まえ、食料・農業・農村政策審議会甘味資源部会において、令和8砂糖年度までの交付対象数量及び指標面積について検証

現在の状況

【調整金収支の状況】

- ・ 歴史的な国際糖価の高騰や円安の影響等により、砂糖勘定の収支は引き続き悪化。
〔※ R4SYの単年度収支▲118億円、累積赤字▲563億円（見込み）〕

【砂糖需給の動向】

- ・ 砂糖の消費量については、直近R4SYは人流の増加に伴う経済活動の回復などにより増加する見込みではあるが、コロナ前のH30SYと比較すると大きく減少している状況。
〔※ H30:183.5万t R1:172.1万t R2:171.0万t R3:174.6万t R4:176.0万t（見込み）〕

【てん菜の生産状況】

- ・ R5年産のてん菜作付面積は、R4年産に比べ▲約4,000haの51,300ha程度となり、R5年産の指標面積54,500haを下回る見込み。

【てん菜糖業の経営状況】

- ・ てん菜糖業の経営を圧迫していたてん菜糖の在庫量はR4SY期末で一定程度減少。
〔※ R4SY期末のてん菜糖の期末在庫量見込み11.9万t（適正在庫量8.5万t）〕

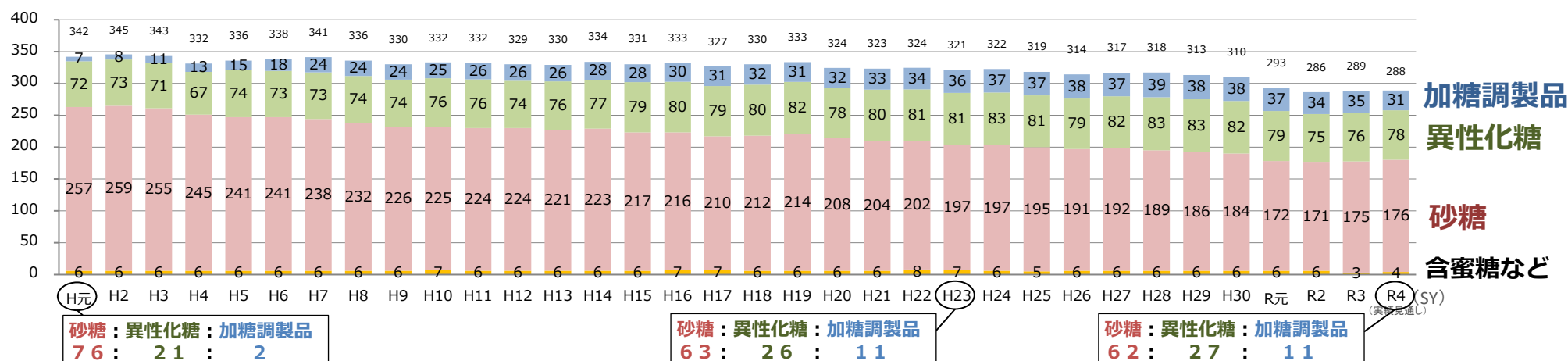
今後の交付対象数量及び指標面積について

- R5年産のてん菜の作付面積については指標面積を下回る見込みであり、てん菜糖業も在庫が一定程度減少。
- このような中、砂糖の消費量はコロナ前と比較し大きく減少している状況にあるとともに、持続的なてん菜生産を支える糖価調整制度の砂糖勘定の収支も累積赤字が増大している。
- このため、引き続き、昨年決定した「持続的なてん菜生産に向けた今後の対応について」に沿って、関係者の協力を得ながら、各取組事項に取り組んでいくことが必要。

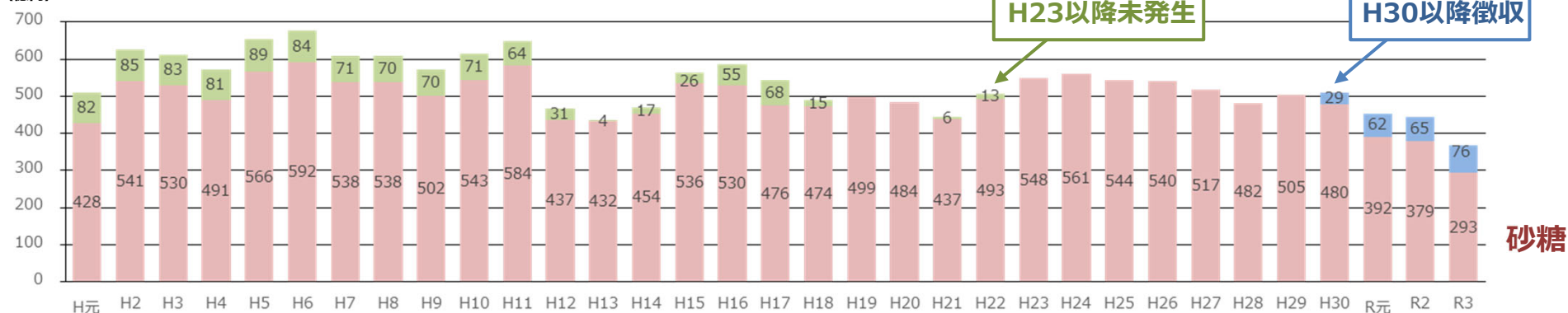
2 甘味全体の需給の推移

- 甘味全体の需要が減少する中、異性化糖の需要はやや増加から横ばいで推移。一方、異性化糖調整金は平成23年度以降、発生していない状況。
- なお、加糖調製品は、需要が長期的に増加傾向で推移しているが、CPTPPを契機として平成30年度から調整金を徴収。

＜甘味の需要量の推移＞
(万トン)

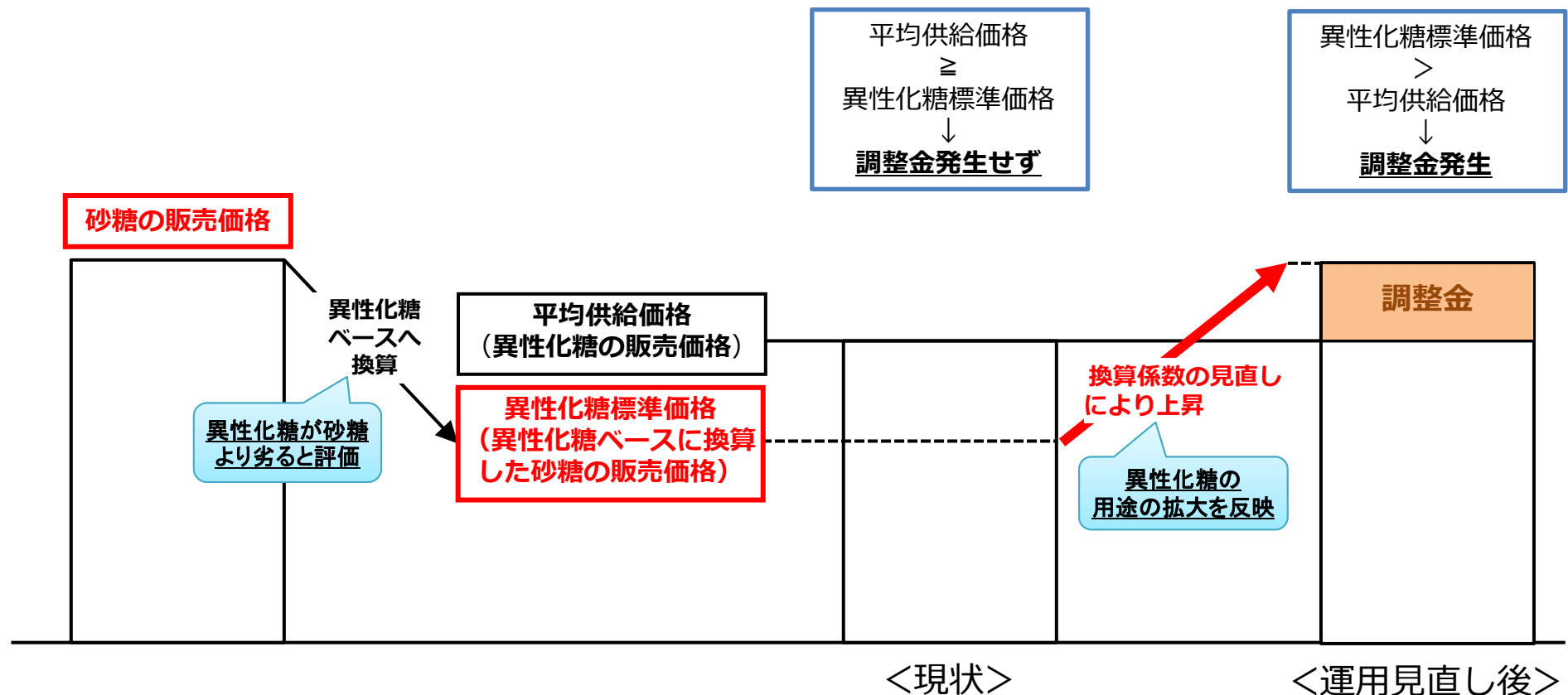


＜各調整金の推移＞
(億円)



3 異性化糖調整金の仕組みと運用見直しの概要

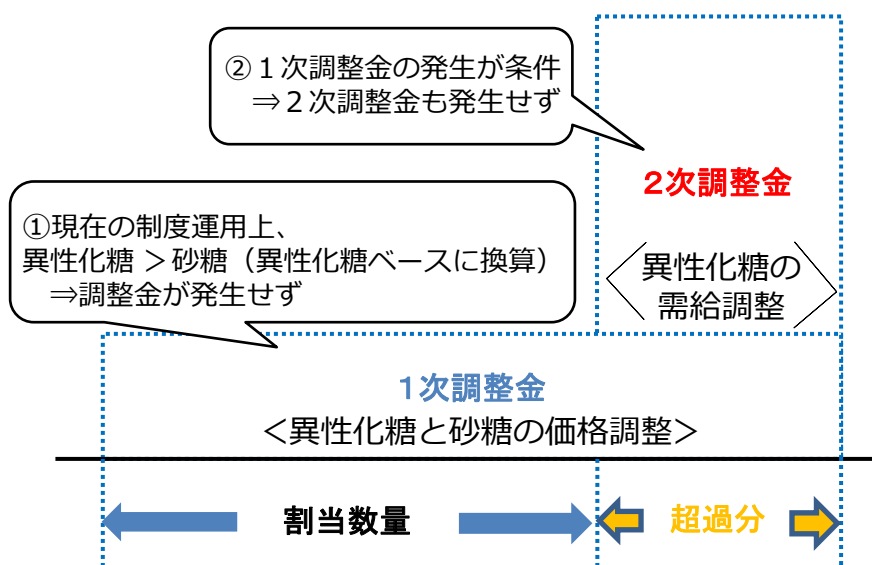
- 異性化糖調整金については、砂糖の販売価格に異性化糖ベースへ換算する係数を乗じることにより異性化糖標準価格を算出し、これと平均供給価格（異性化糖の販売価格）の差を上限として設定。
- 現在の運用では、平均供給価格が異性化糖標準価格を上回っており、調整金が発生せず。
- 今般の運用見直しにおいては、換算係数について、砂糖と異性化糖の用途等の現状を踏まえた見直しを実施。その結果、異性化糖標準価格が上昇し、調整金が発生する見込み。



4 異性化糖調整金の発生による効果

- 異性化糖の（１次）調整金が発生しない場合、２次調整金も発生しないこととなる。その結果、２次調整金による需給調整が機能せず、コロナ禍の需要減少期等を除き、需給見通しを踏まえて設定する割当数量を超えて販売されている状況。
- 調整金が発生すれば、需給調整が機能。
- なお、輸入粗糖については、１次調整金が恒常的に徴収され、２次調整金による需給調整が機能しており、異性化糖に係る需給調整は、糖価調整制度の関係業界の健全な発展にも寄与すると考えられる。

＜異性化糖調整金の仕組みと現在の運用状況＞



＜割当数量に対する販売数量の割合の推移＞

